

平成 27 年度 文化財審議委員会報告書

1 日 時 平成28年3月23日（水）13：30～16：20

2 場 所 教育委員会 会議室（浦幌町立博物館）

3 出席者

(1) 文化財審議委員会

橋本委員、加藤委員、福家委員、及川委員 4名 ※欠席委員～木川委員

(2) 教育委員会

田村教育長 ※あいさつ後退席

湯佐生涯学習課長、宮入主幹、西田社会教育係長、松浦社会教育係

4 会議次第

(1) あいさつ

⇒教育長からあいさつ

(2) 委員長あいさつ

⇒橋本委員長からあいさつ ※以下、橋本委員長が進行

(3) 調査事項

○幕別町指定文化財等の保存・管理・展示について

①幕別町郷土文化資料館整備等基本構想（案）

・13：30～13：45

⇒別紙資料1を社会教育係長が説明

※昨年度の審議と意見の内容の確認と、教育委員会としての今後の方向性について説明。

②浦幌町立博物館研修視察（13：50教育委員会出発、16：20教育委員会到着）

・14：30～15：00 博物館視察

・15：00～15：40 質疑応答（浦幌町立博物館持田学芸員）

※持田学芸員は、昨年、帯広百年記念館から浦幌町立博物館へ。（5カ所目）

⇒平成12年12月に完成した博物館（593㎡）である。（図書館等と併設（延床面積2,542㎡）で、約9億8千万円の建設費である。）【別紙博物館年報のとおり】

⇒展示品は約900点、収蔵しているもの含めると約10,000点である。

⇒展示室は温度管理のみで、湿度管理は行っていない。

⇒温湿管理のできる収蔵庫が施設内にあるが、手狭なため管理が難しい古文書等を収蔵している。なお、その他の収蔵品は、その他数カ所の施設で収蔵しているが、剥製等は虫が発生するなど保存状態が良くない。

⇒その他数カ所の施設を利用した収蔵庫は、地震免震などの問題もある。廃校の活用も検討している。

⇒現在は、埋蔵文化財が当博物館のメイン（大半がレプリカではなく、本物を使用）となっており、開拓後の生活道具や農具等の展示は大変少なくなっている。なお、農具等は寄贈もあり、収蔵庫に溢れかえっている。

⇒展示室の問題点としては、埋蔵文化財の土器等を展示するショーケースが、可動式になっていないため、そのスペースをそれ以外に活用できないことである。

⇒現在の博物館は、『常設展示』ではなく、『基本展示』という考え方になってきている。

その施設で永久に展示するものを『基本展示』として、その他はテーマに沿って『特別展示』として変更できるようにし、限られたスペースを有効に活用していくものである。

（『常設展示』の形式では、展示物や展示方法を変更することができないことや、施設面積も大きくなってしまう。）